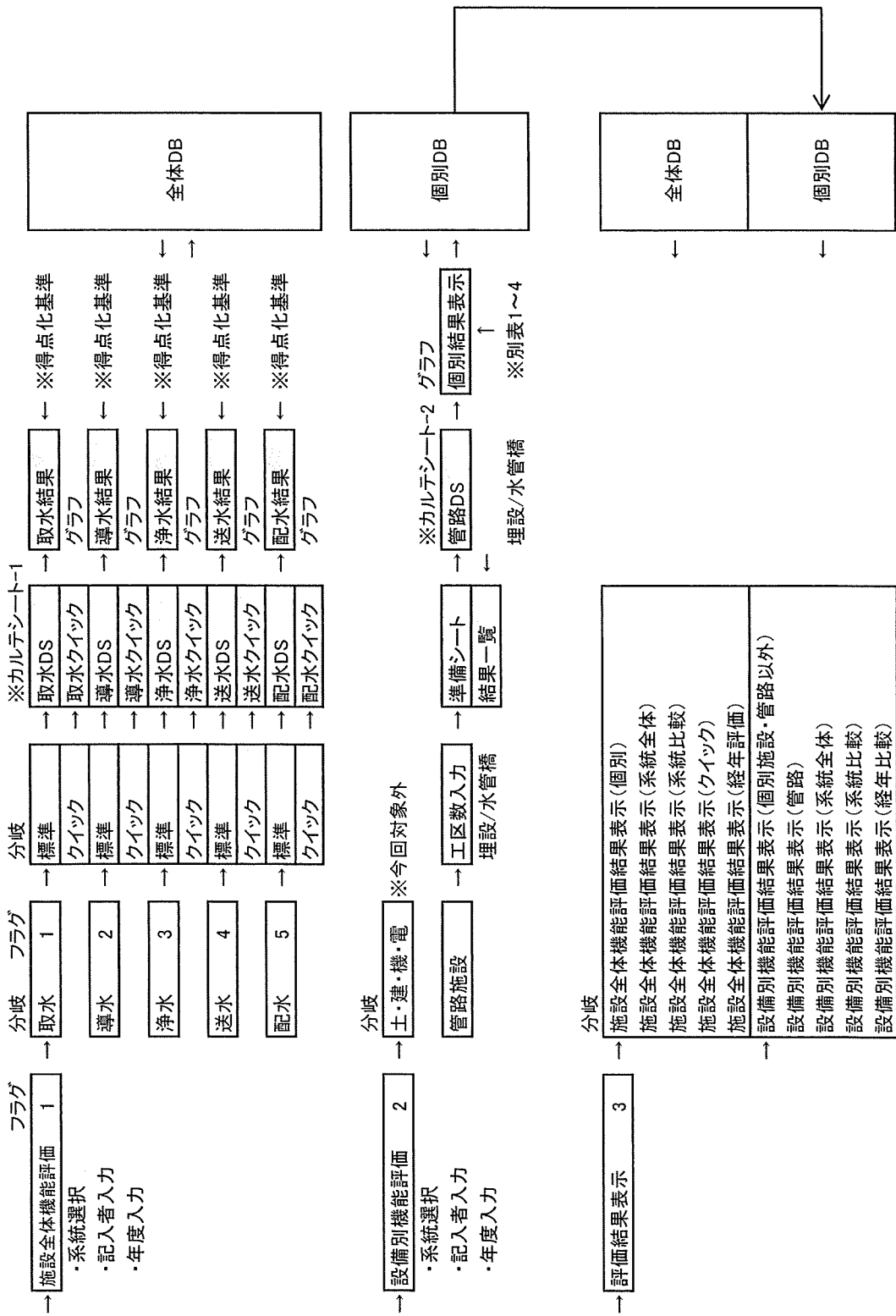


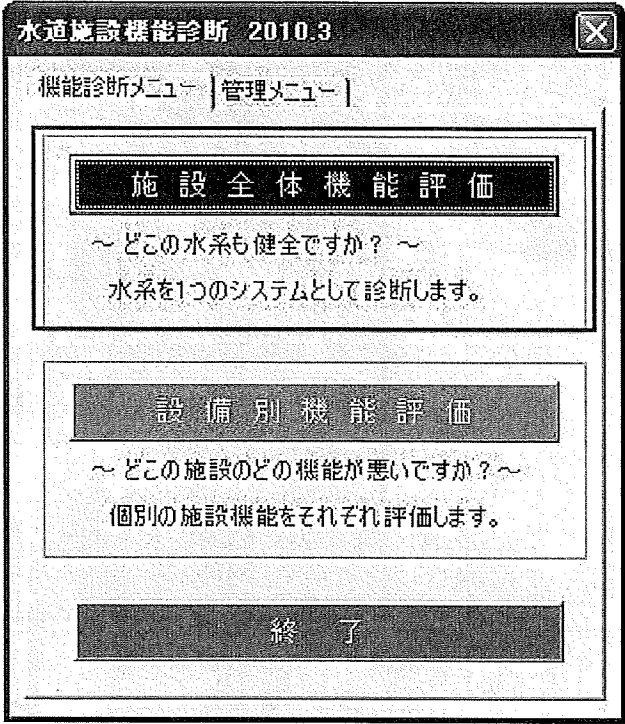
水道施設機能評価システムフロー



2. 操作手順

2.1 全体機能評価

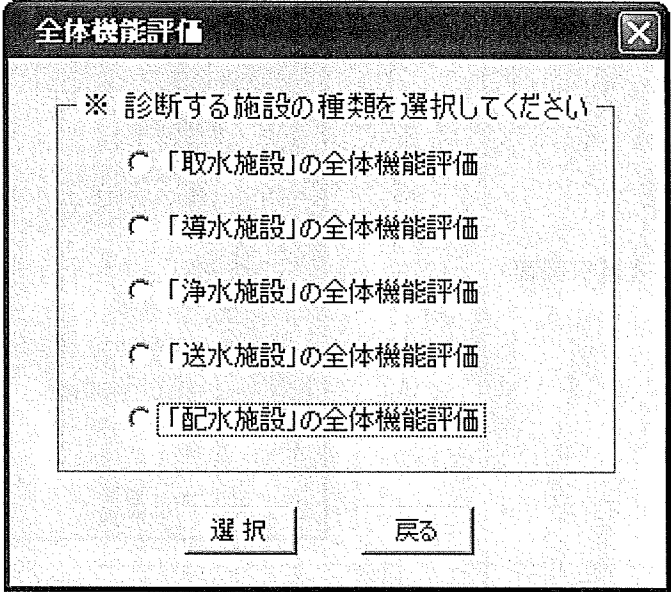
2.1.1 メニュー画面

●施設全体機能評価－①	
メニュー画面	
操作手順	<p>①ツールを起動すると、上記のメニュー画面が自動で表示。</p> <p>②「施設全体機能評価」をクリックする。 ※次画面「系統の選択」へ移動</p>
(機能説明)	
1. 施設全体機能評価	<ul style="list-style-type: none"> ・施設全体機能評価を開始する。(診断フラグー1) ・系統選択画面へ移動する。
2. 設備別機能評価	<ul style="list-style-type: none"> ・設備別機能評価を開始する。(診断フラグー2) ・系統選択画面へ移動する。
3. 終了	<ul style="list-style-type: none"> ・保存して終了する。 ※「変更を保存しますか？」のメッセージボックス ・変更がなければ、そのままツール終了。 ※ エクセルブックの終了

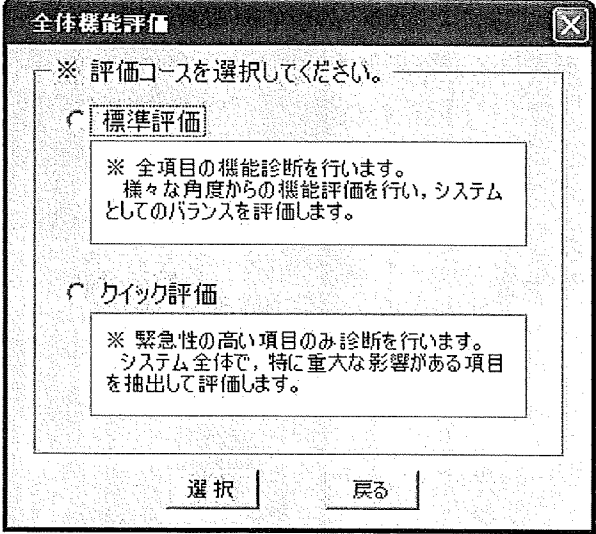
2.1.2 系統の選択

●施設全体機能評価－②	
系統の選択画面	
操作手順	<p>①系統リストから診断対象の系統を選択し、診断開始をクリック ※次画面「施設種類選択」に移動</p> <p>②系統リストに系統を追加するときは「※新規系統の作成・追加」のテキストボックスに系統名記入し、「追加」をクリック。 (※初回は入力必須)</p>
(機能説明)	
1. 診断開始	<ul style="list-style-type: none"> ・選択した系統の施設全体機能評価を開始。 「○○系統の診断を開始します」のメッセージボックス
2. 戻る	<ul style="list-style-type: none"> ・メニュー画面に戻る。
3. 追加	<ul style="list-style-type: none"> ・新規系統の作成・追加に入力した系統を系統リストに追加する。既に同じ名称の系統がある場合は追加不可。 「その系統は既に登録されています」のメッセージボックス。

2.1.3 施設種類の選択

●施設全体機能評価－③	
施設種類選択画面	
操作手順	<p>・前画面で選択した系統で、診断したい施設種類をラジオボタンでチェックし、「選択」をクリック。</p> <p>※ラジオボタン （画面中の「○」にチェック、選択肢のうち、1のみ選択可能）</p>
（機能説明）	
1. 選択	<p>・診断モードの選択に移動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「取水施設」の全体機能評価（施設種類フラグ1） ○「導水施設」の全体機能評価（施設種類フラグ2） ○「浄水施設」の全体機能評価（施設種類フラグ3） ○「送水施設」の全体機能評価（施設種類フラグ4） ○「配水施設」の全体機能評価（施設種類フラグ5）
2. 戻る	<p>・系統選択画面へ戻る。</p>

2.1.4 評価コースの選択

●施設全体機能評価－④	
評価コース選択画面	
操作手順	<ul style="list-style-type: none"> ・標準評価（全項目について回答）かクイック評価（主要な設問のみ回答）のどちらかのラジオボタンにチェックをいれ、「選択」をクリック。 ※ラジオボタン （画面中の「○」にチェック、選択肢のうち、1のみ選択可能）
（機能説明）	
1. 選択	<ul style="list-style-type: none"> ・診断シート（データシート）に移動。 ○標準評価 （標準評価データシートに移動） ○クイック評価 （クイック評価データシートに移動）
2. 戻る	<ul style="list-style-type: none"> ・施設種類選択に戻る。

2.1.5 標準評価

(1) データシート（取水を抜粋）

● 取水施設データシート（全体機能評価/標準）

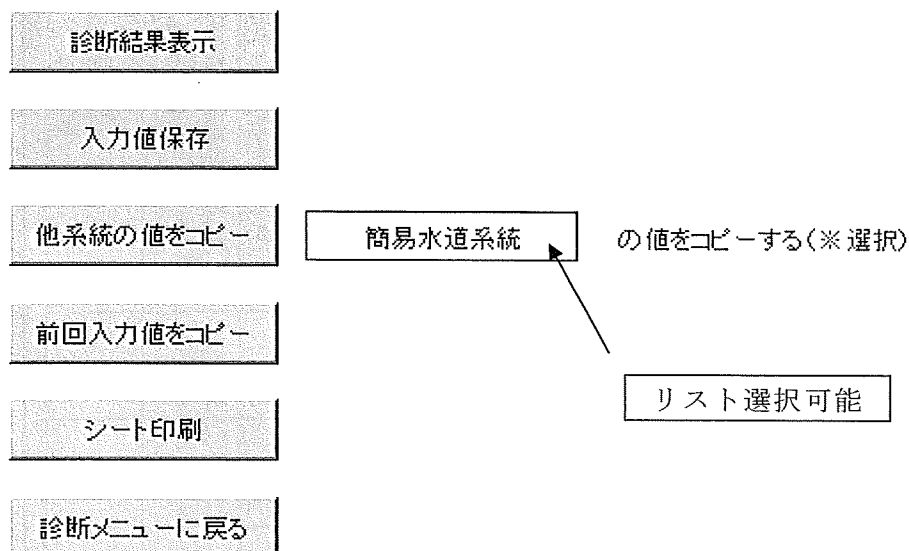
選択欄 入力欄

【 Menu 】		系統名 :	<input type="text" value="JWRC"/>	※Text	<input type="text" value="JWRC"/>
		担当者 :	JWRC	※Text	
【 赤字内を入力してください 】		年月日 :	平成22年4月15日	※Date (yy/mm/dd)	

No.	入力項目	前回番号	値	単位	説明	Quick
1	計画取水量	(2)	35,000	m ³ /日	<input type="button" value="Click"/>	
2	総予備取水能力	(33)	0	m ³ /日	<input type="button" value="Click"/>	
3	井戸の経過年数	(44)	0	年	<input type="button" value="Click"/>	●
4	土木構造物の経過年数	(45)	41	年	<input type="button" value="Click"/>	●
5	機電設備(ポンプ・受電等)の経過年数	(46)	16	年	<input type="button" value="Click"/>	●
6	水源監視システムの有無	(47)	○ : 全可 ● : 一部可 ○ : 不可	3択	<input type="button" value="Click"/> <input type="button" value="Delete"/>	
7	取水量記録の保管	(48)	○ : 有り ● : 無し	2択	<input type="button" value="Click"/> <input type="button" value="Delete"/>	
8	停電時の取水可能水量	(49)	0	m ³ /日	<input type="button" value="Click"/>	
9	水融通可能水量	(50)	24,000	m ³ /日	<input type="button" value="Click"/>	
10	取水自家発電継続時間	(51)	0	時間(h)		
11	湧水頻度	(52)	0	回/10年	<input type="button" value="Click"/>	
12	取水不足度合	(53)	0	%日	<input type="button" value="Click"/>	
13	事故・故障の発生頻度	(54)	0	回/5年	<input type="button" value="Click"/>	●
14	事故・故障の大きさ	(55)	○ : 無事故 ● : 設備機能影響なし ○ : 主機の能力減 ○ : 設備の全機能停止	4択	<input type="button" value="Click"/> <input type="button" value="Delete"/>	●
15	事故・故障の波及範囲	(56)	○ : 無事故 ○ : 給水に影響なし ● : 設備内に影響あり ○ : 施設に影響あり ○ : 給水に影響あり	5択	<input type="button" value="Click"/> <input type="button" value="Delete"/>	●
16	事故・故障の継続時間	(57)	0	時間(h)	<input type="button" value="Click"/>	●
17	停電の発生頻度	(59)	0	回/5年	<input type="button" value="Click"/>	
18	停電被害の波及範囲	(60)	● : 無事故・無被害 ○ : 施設内で対応 ○ : 水運用で対応 ○ : 断水に至った ○ : その他(甚大)	5択	<input type="button" value="Click"/> <input type="button" value="Delete"/>	
19	停電被害継続時間	(61)	0	時間(h)	<input type="button" value="Click"/>	
20	取水制限発生頻度	(62)	0	回/10年	<input type="button" value="Click"/>	
21	取水制限発生期間	(63)	0	時間(h)	<input type="button" value="Click"/>	
22	被害影響度	(64)	0	%日	<input type="button" value="Click"/>	
23	耐震対策の施されているポンプ所能力	新 1	0	m ³ /日	<input type="button" value="Click"/>	●
24	全ポンプ所能力	新 2	34,560	m ³ /日	<input type="button" value="Click"/>	●
25	自家用発電設備容量	新 3	0	kW	<input type="button" value="Click"/>	
26	当該設備の電気総容量	新 4	1,250	kW	<input type="button" value="Click"/>	

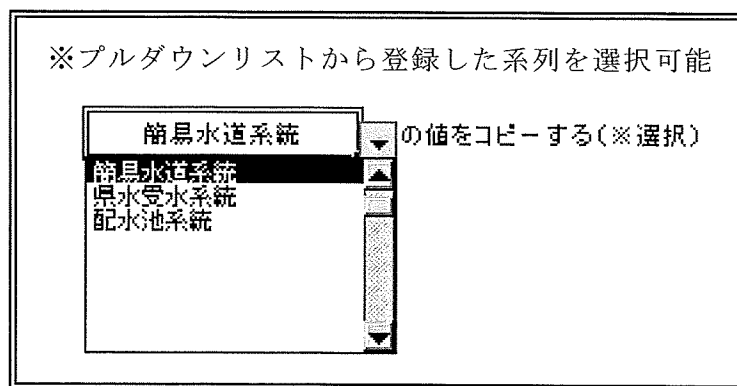
共通機能
(標準評価メニュー)

【 Menu 】



(説明)

- ①標準評価結果表示 : 評価結果(得点)およびグラフの表示
- ②入力値保存 : 全体評価データベースへの登録
- ③他系統の値をコピー : 他系統の値をデータシートへコピー



- ④前回入力値をコピー : 選択した系統の前回入力値をコピー
- ⑤シート印刷 : データシートの印刷
- ⑥診断メニューに戻る : 全体機能評価メニューへ戻る

(2) 結果表示

● 取水施設の全体機能評価 (全体機能評価/標準)

【算出結果】		系統名:	浄水場系統-1	※Text
		担当者:	JWRC	※Text
		年月日:	平成22年3月20日	※Date (yy/mm/dd)

区分	PI/手引 No.	評価指標	得点	グラフ	式 / 説明
安心	13	水質汚染リスク	3点		計算式
安定	8	予備水源確保率	0点		計算式
安定	11	緊急時取水対応度	1点		計算式
安定	12	湧水発生リスク	3点		計算式
安定	16	取水事故・故障リスク	3点		計算式
安定	17	停電リスク	2点		計算式
安定	2208	ポンプ所耐震施設率	0点		計算式
安定	2216	自家用発電設備容量率	0点		計算式
持続	14	水源管理充実度	1点		計算式
持続	15	取水施設経年度合	1点		計算式

2.1.6 クイック評価

(1) 評価形式

クイック評価は、回答項目数を主要項目に絞った診断である。

データシートおよび結果シートを1枚とし、A4サイズで入力・出力が確認できる更生とした。

(2) データシート/結果シート

● 取水施設データシート（全体機能評価/クイック）

選択欄	入力欄
-----	-----

【赤枠内を入力してください】		系統名：	配水池系統	※Text
		担当者：	天野 幹大 (JWRC)	※Text
		年月日：	平成22年3月5日	※Date (yy/mm/dd)

No.	入力項目	前回番号	値	単位	説明	Quick
1	井戸の経過年数	(44)	10	年	<input type="button" value="Click"/>	●
2	土木構造物の経過年数	(45)	45	年	<input type="button" value="Click"/>	●
3	機電設備(ポンプ・受電等)の経過年数	(46)	7	年	<input type="button" value="Click"/>	●
4	事故・故障の発生頻度	(54)	1	回/5年	<input type="button" value="Click"/>	●
5	事故・故障の大きさ	(55)	<input type="radio"/> : 無事故 <input checked="" type="radio"/> : 設備機能影響なし <input type="radio"/> : 主機の能力減 <input type="radio"/> : 設備の全機能停止	4択	<input type="button" value="Click"/> <input type="button" value="Delete"/>	●
6	事故・故障の波及範囲	(56)	<input type="radio"/> : 無事故 <input type="radio"/> : 給水に影響なし <input checked="" type="radio"/> : 設備内に影響あり <input type="radio"/> : 施設に影響あり <input type="radio"/> : 給水に影響あり	5択	<input type="button" value="Click"/> <input type="button" value="Delete"/>	●
7	事故・故障の継続時間	(57)	0.5	時間(h)	<input type="button" value="Click"/>	●
8	耐震対策の施されているポンプ所能力	新 1	10,000	m ³ /日	<input type="button" value="Click"/>	●
9	全ポンプ所能力	新 2	34,560	m ³ /日	<input type="button" value="Click"/>	●

【算出結果】

区分	評価指標	得点	グラフ	式 / 説明
安定	取水事故・故障リスク	3点		<input type="button" value="計算式"/> <input type="button" value="?"/>
安定	ポンプ所耐震施設率	0点		<input type="button" value="計算式"/> <input type="button" value="?"/>
持続	取水施設経年度合	1点		<input type="button" value="計算式"/> <input type="button" value="?"/>

2.1.7 系統間比較

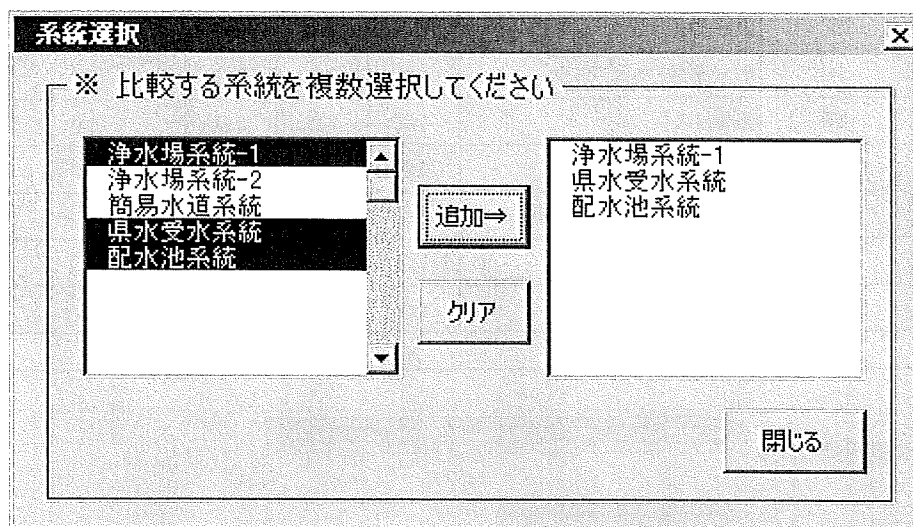
(1) 操作方法

①全体機能評価結果シートにある「系統変更」ボタンをクリックする。

系統変更

②下のダイアログボックスから比較したい系統（最大6系統）を選択し「追加」をクリックする。

③追加系統を修正したいときは「クリア」をクリックする。



④追加した系統の項目ごとの評価点およびグラフが作成される。(次頁参照)

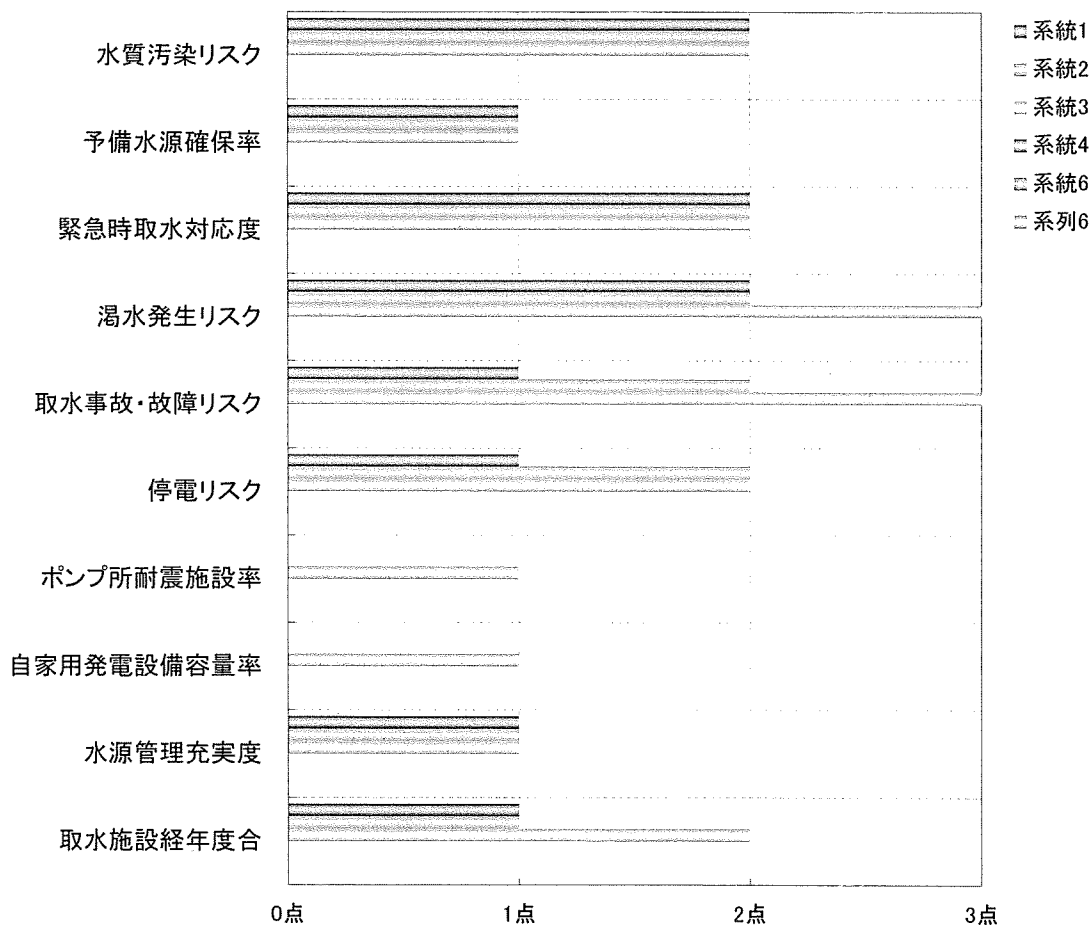
※経年比較機能についても作成予定

(2) 比較シート

● 取水施設の全体機能評価（全体機能評価/標準）

【算出結果】

区分	PI/手引 No.	評価指標	系統別得点					
			系統1	系統2	系統3	系統4	系統5	系統6
安心	13	水質汚染リスク	2点	2点	2点			
安定	8	予備水源確保率	1点	1点	1点			
安定	11	緊急時取水対応度	2点	2点	2点			
安定	12	渇水発生リスク	2点	2点	3点			
安定	16	取水事故・故障リスク	1点	2点	3点			
安定	17	停電リスク	1点	2点	2点			
安定	2208	ポンプ所耐震施設率	0点	0点	1点			
安定	2216	自家用発電設備容量率	0点	0点	1点			
持続	14	水源管理充実度	1点	1点	1点			
持続	15	取水施設経年度合	1点	1点	2点			

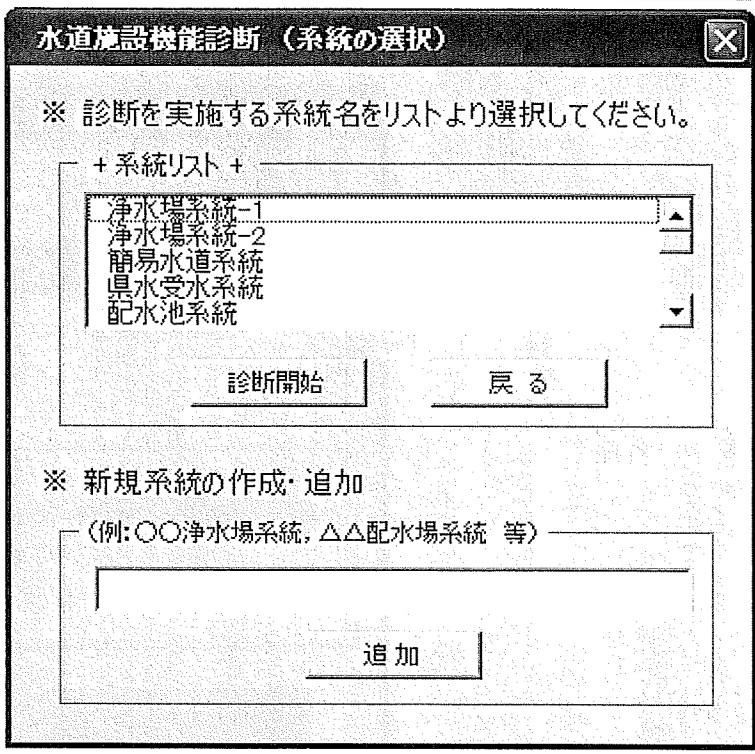


2.2 設備別機能評価

2.2.1 メニュー画面

● 設備別機能評価－①	
メニュー画面	
操作手順	<p>① ツールを起動すると、上記のメニュー画面が自動で表示。</p> <p>② 「個別機能評価」をクリックする。</p> <p>※ 次画面「系統の選択」へ移動</p>
(機能説明)	
1. 施設全体機能評価	<ul style="list-style-type: none"> 施設全体機能評価を開始する。(診断フラグ-1) 系統選択画面へ移動する。
2. 設備別機能評価	<ul style="list-style-type: none"> 設備別機能評価を開始する。(診断フラグ-2) 系統選択画面へ移動する。
3. 終了	<ul style="list-style-type: none"> 保存して終了する。 ※ 「変更を保存しますか？」のメッセージボックス 変更がなければ、そのままツール終了。 ※ エクセルブックの終了

2.2.2 系統の選択

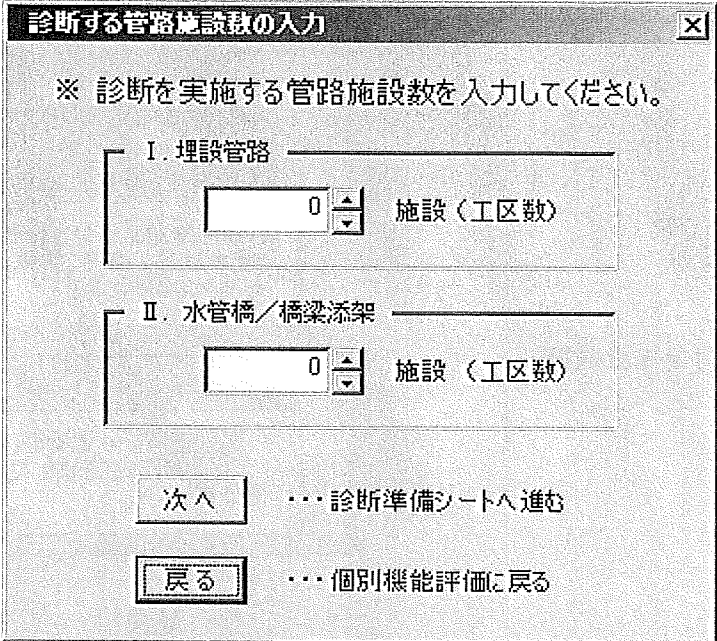
●設備別機能評価－②	
<p>系統の選択画面</p>	
<p>操作手順</p>	<p>①系統リストから診断対象の系統を選択し、診断開始をクリック ※次画面「診断対象施設の選択」に移動</p> <p>②系統リストに系統を追加するときは「※新規系統の作成・追加」のテキストボックスに系統名記入し、「追加」をクリック。 (※初回は入力必須)</p>
<p>(機能説明)</p>	
<p>1. 診断開始</p>	<p>・選択した系統の施設全体機能評価を開始。 「○○系統の診断を開始します」のメッセージボックス</p>
<p>2. 戻る</p>	<p>・メニュー画面に戻る。</p>
<p>3. 追加</p>	<p>・新規系統の作成・追加に入力した系統を系統リストに追加する。既に同じ名称の系統がある場合は追加不可。 「その系統は既に登録されています」のメッセージボックス。</p>

2.2.3 診断対象施設の選択

(※今回は管路施設のみ対象)

●設備別機能評価－③	
診断対象施設選択	
操作手順	<ul style="list-style-type: none"> ・ 管路施設のラジオボタンにチェックをいれ、「選択」をクリック。 ※ラジオボタン (画面中の「○」にチェック, 選択肢のうち, 1のみ選択可能) ・・・ 構造物、設備、機器類は次年度以降の拡張機能として作成
(機能説明)	
1. 選択	<ul style="list-style-type: none"> ・ 管路施設数の入力画面へ移動 ○ 構造物、設備、機器類 (※次年度以降作成予定) ○ 管路施設 (※今回作成機能)
2. 戻る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 系統選択画面へ戻る

2.2.4 管路施設数の入力

● 設備別機能評価－④	
管路施設数の入力	
操作手順	<ul style="list-style-type: none"> ・埋設管路の診断施設数および水管橋の診断施設数をそれぞれ入力。 ※半角数字で直接入力するか、スピンのボタンで数値を加減する。 ※スピンのボタン▲ (+1), ▼ (-1), デフォルト値 (0)
(機能説明)	
1. 次へ	<ul style="list-style-type: none"> ・管路評価準備シートへ移動し、入力した施設数に応じて診断シートを作成する。 ※埋設データシート (カルテシート-2) ×埋設管路数 ※水管橋データシート (カルテシート-2) ×水管橋数
2. 戻る	<ul style="list-style-type: none"> ・診断対象施設選択画面へ戻る

2.2.5 管路準備シート

入力した管路施設数に応じて、下表が作成される。

耐震性および老朽度は別表より判断した点数を入力する。

※老朽度判定点は、改善必要度評価が必要な管路施設のみ必須項目

● 管路評価準備シート

カルテシート-2作成

シート初期化

管路No	系統名	管路形態	耐震性 判定点 ^{※1}	老朽度 判定点 ^{※2}	路線名	管路種別	管種	継手	口径	経過年数
	リストから選択	リストから選択	別表より判断	別表より判断	任意	任意	任意	任意	任意	任意
工区-1	浄水場系統-1	水管橋								
工区-2	浄水場系統-1	水管橋								
工区-3	浄水場系統-1	水管橋								
工区-4	浄水場系統-1	水管橋								
工区-5	浄水場系統-1	水管橋								
工区-6	浄水場系統-1	埋設管								
工区-7	浄水場系統-1	埋設管								
工区-8	浄水場系統-1	埋設管								
工区-9	浄水場系統-1	埋設管								
工区-10	浄水場系統-1	埋設管								
工区-11	浄水場系統-1	埋設管								
工区-12	浄水場系統-1	埋設管								
工区-13	浄水場系統-1	埋設管								
工区-14	浄水場系統-1	埋設管								
工区-15	浄水場系統-1	埋設管								
予備欄										
記入例	浄水場系統-1	埋設管	0	3	国道1号線北	送水管	DCIP	不明	200	10~20

管路No 事前に選択させる工区数分の表示

系統名 前段の選択内容とリンク

管路形態 埋設管/水管橋・橋梁添架を選択

耐震性 3~0を選択

老朽度 3~0を選択

路線名 手入力

管路種別 導水/送水/配水

管種 手入力

継手 手入力

口径 手入力

経過年数 手入力

(機能)

- ① 診断シート作成 : 管路診断シート（埋設管/水管橋）を作成する。
- ② シート初期化 : 管路準備シートを入力前に初期化する。

2.2.6 管路機能評価

(1) データシート (埋設管)

● カルテシート-2 管路別機能評価 <埋設管>

入力欄

分類	No	詳細設問	評価区分	判定点	平均点 (/50点)	合計点 (/100点)
漏水	A	管(本体・継手)の漏水事故及び漏水修繕件数 (第三者による破損等の場合は除く)	○：1度もない ◎：記録は残していないが、分かっている範囲では事故なし ⊙：1度あり ○：複数回あり	3	1点	17点
	B.1	布設してから経過年数	○：20年未満 ⊙：20～39年、または“不明” ○：40年以上	2	1点	25点
	B.2	次の対策の実施状況 金属管：外面腐食対策 樹脂管：必要な外面損傷対策 (碎石等の突起による管体破損への対策)	○：区間内の全て実施済 ○：一部箇所未実施、または“不明” ○：区間内の全て未実施	3	0点	
	B.3	外部河原や高次下等の影響 (管の上張りや管体は、埋設管(T25)等の外部荷重に対応しているか？また、上越し・下越しや構造物取付部等の不等沈下を生じやすい箇所か。横断、曲線継手等により地盤沈下等)	○：ほとんど影響なし ○：一部影響の恐れあり、または“不明” ⊙：影響の恐れが大きい	3	0点	
	B.5	特別な事項	○：良い(ほとんど問題なし) ⊙：普通(問題は少ない、大きな問題なし) ○：悪い(問題が多い)	2	—	
水質	A	この区間における管を原因とする赤水・漏水の発生、夾雑物(異物・シールコート)の混入、有機汚濁による臭気味などの事故の発生	○：1度もない ◎：記録は残していないが、分かっている範囲では事故なし ⊙：1度あり ○：複数回あり	3	1点	17点
	B.1	他の区間と比べ、サブコ等による残留塩素消費状況	○：問題なし ⊙：ある時期(季節や昼夜の差)や一部箇所(露出管路)で問題あり、または“不明” ○：残留塩素消費が大きい	2	1点	34点
	B.2	無ラインング管(直管・異形管)の使用状況	○：未使用 ⊙：一部使用、または“不明” ○：多く使用	2	1点	
	B.3	他の区間と比較した場合の滞留状況 (滞留によるトリハロメタンの上昇等の影響)	○：滞留していない ⊙：ある時期(季節や昼夜の差)や一部箇所(露出管路)で滞留あり、または“不明” ○：滞留しやすい	3	0点	
	B.4	特別な事項	○：良い(ほとんど問題なし) ⊙：普通(問題は少ない、大きな問題なし) ○：悪い(問題が多い)	—	—	
水量・水圧	A	この区間の管が原因となる出水不良の発生状況	○：発生していない ◎：記録は残していないが、分かっている範囲では問題なし ○：特定箇所・特定時期で発生 ○：口径不足・サブコ等により発生	2	2点	33点
	B.1	将来の計画配水量への対応性 (この区間の管路の損失水頭は大きくないか？)	○：問題なし ⊙：場合によって対応不可、または“不明” ○：対応不可	2	1点	59点
	B.2	近隣またはこの区間の消火栓によって消火する場合の水圧	○：ほとんど影響なし ⊙：責任は生じないが影響あり、または“不明/該当無し” ○：責任が生じる、またはその恐れあり	2	1点	
	B.3	特別な事項	○：良い(ほとんど問題なし) ⊙：普通(問題は少ない、大きな問題なし) ○：悪い(問題が多い)	2	—	
地盤	A	埋設管の管種・継手構造の耐震性 算出方法：別表1を参照	◎：埋設場所の地盤は、良い ⊙：埋設管は、耐震管に相当する ○：埋設管は、耐震管に相当しない	2	0点	33点
	B.1	埋設場所は、地下水位の高い砂地盤など、液状化の危険はないか？ 2) (例：旧河道・砂州・三角州・干拓地・埋立地等の中の道路への埋設など)	○：区間内の全てで問題なし ⊙：一部区間で危険がある、もしくは危険性がゼロではない地盤・地形である、または“不明” ○：区間内の多くの箇所危険がある	2	1点	
	B.2	埋設場所は、(B)での地盤工・掘削工事の沖積地盤など、ゆれやすく軟弱な地盤ではないか？ 3) (例：谷津田・泥炭地・湿地・水田等の中の道路への埋設など)	○：区間内の全てで問題なし ⊙：一部区間で軟弱な箇所がある、もしくは危険性がゼロではない地盤・地形である、または“不明” ○：区間内の多くの箇所軟弱である	1	1点	
	B.3	埋設場所は、切り盛り造成地や急峻地・山地の道路、及び掘削掘削部など、大きな地盤崩落・地盤変形などによって管が二次被害を受ける危険はないか？	○：区間内の全てで問題なし ○：一部区間で危険がある、もしくは危険性がゼロではない地盤・地形である、または“不明” ○：区間内の多くの箇所危険がある	1	2点	
	B.4	特別な事項	○：良い(ほとんど問題なし) ⊙：普通(問題は少ない、大きな問題はない) ○：悪い(問題が多い)	1	—	
維持管理	A	弁輪類等の付属設備の通常点検などを行いやすく、また事故時対応も問題がないなど、管理しやすい埋設状況にあるか？ (河川敷・民地内・交差点内・繁華街の布設や埋設深度など、管理上問題はありますか？)	○：良好な環境 ◎：資料はないが、分かっている範囲では問題なし ○：軽微な支障あり ○：重大な問題あり	2	2点	33点
	B.1	埋設情報(管種、口径、埋設位置)の把握状況	○：正確に把握できている(管種、口径、埋設位置) ⊙：一部把握できている(管種と口径、または埋設位置のみ) ○：把握できていない	2	1点	58点
	B.2	仕切弁、消火栓、空気弁、ドレン等の付属設備の設置状況	○：良い(支障なし) ⊙：普通(支障になることが少ない)、または“不明” ○：悪い(支障になることが多い)	2	1点	
	B.3	仕切弁、消火栓、空気弁、ドレン等の付属設備の操作性	○：良い(支障なし) ⊙：普通(支障になることが少ない)、または“不明” ○：悪い(支障になることが多い)	2	1点	
	B.4	特別な事項	○：良い(ほとんど問題なし) ⊙：普通(問題は少ない、大きな問題はない) ○：悪い(問題が多い)	2	—	

注) 1) “不明”は、「該当しない場合」を含むものとする。
2) 3) 液状化、軟弱地盤について詳細に検討したい場合は、上位計画、表2、その他公表データを参照のこと。表2を参照する場合は、危険性(大・中・小)の解釈は各事案で設定すること。液状化の危険性や軟弱地盤であるか否かは、布設管路(道路)の周辺地盤を判定の対象とする。

(2) データシート (水管橋)

● カルテシート-2 管路別機能評価 < 独立水管橋 > 及び < 添架管 >

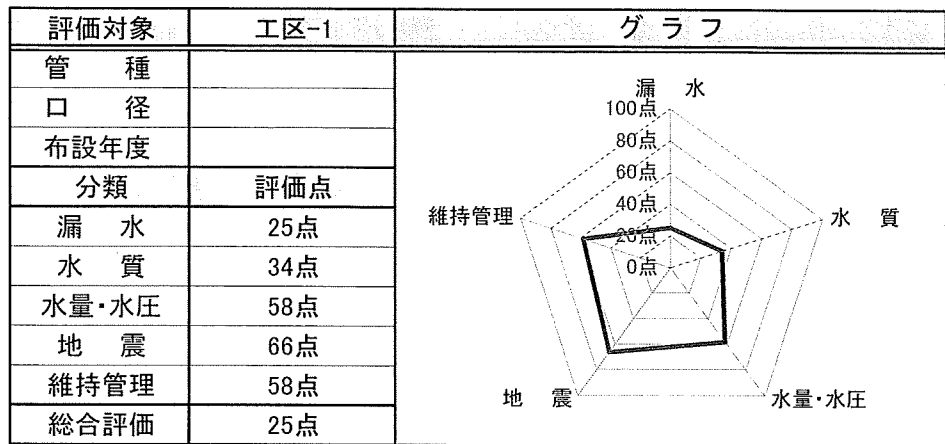
入力欄

分類	No	詳細設問	評価区分	判定点	平均点 (/50点)	合計点 (/100点)
漏水	A	管(本体・継手)の漏水事故及び漏水修繕件数 (第三者による破損等の場合は除く)	○ : 1度もない ○ : 記録は残していないが、分かっている範囲では事故なし ○ : 1度あり ○ : 複数回あり	0点	0点	0点
	B.1	架設してから経過年数	○ : 20年未満 ○ : 20~39年、または“不明” ○ : 40年以上	0点		
	B.2	管軸方向の変位を吸収できる状況(指動性)	○ : ほとんど影響なし ○ : 一部影響の恐れあり、または“不明” ○ : 影響の恐れが大きい	0点		
	B.3	管本体の劣化、下部工(橋台・橋脚)の劣化、不平等沈下、その他の付帯設備(点検歩廊など)の劣化状況(※添架管の場合、橋本体の劣化状況は評価の対象外)	○ : ほとんど問題なし ○ : 部分的な劣化あり、または“不明” ○ : 劣化が相当進行	0点		
	B.5	特別な事項 定期点検の実施頻度	○ : 良い(ほとんど問題なし) ○ : 普通(問題は少ない、大きな問題なし) ○ : 悪い(問題が多い)	0点		
水質	A	管を原因とする赤水・濁水の発生、突発物(異物・シールコート)の混入、有機溶剤等による異臭味などの事故の発生	○ : 1度もない ○ : 記録は残していないが、分かっている範囲では事故なし ○ : 1度あり ○ : 複数回あり	0点	0点	0点
	B.1	他の区間と比べ、サビコブ等による残留塩素消費状況	○ : 問題なし ○ : ある時期(季節や昼夜の差)や一部箇所(露出管路)で問題あり、または“不明” ○ : 残留塩素消費が大きい	0点		
	B.2	管の内面腐食対策	○ : 実施済、または樹脂管 ○ : 一部未実施、または“不明” ○ : 未実施	0点		
	B.3	他の区間と比較した場合の滞留状況(滞留によるトリハロメタンの上昇等の影響)	○ : 滞留していない ○ : ある時期(季節や昼夜の差)や一部箇所(露出管路)で滞留あり、または“不明” ◎ : 滞留しやすい	0点		
	B.4	特別な事項	○ : 良い(ほとんど問題なし) ○ : 普通(問題は少ない、大きな問題なし) ○ : 悪い(問題が多い)	—		
水量・水圧	A	この管が原因となる出水不良の発生状況	○ : 発生していない ○ : 記録は残していないが、分かっている範囲では問題なし ○ : 特定箇所・特定時期で発生 ○ : 口径不足、サビコブ等により発生	0点	0点	0点
	B.1	将来の計画配水量への対応性(この管の損失水頭は大きくないか?)	○ : 問題なし ○ : 場合によって対応不可、または“不明” ○ : 対応不可	0点		
	B.2	近隣の消火栓によって消火する場合の水圧	○ : ほとんど影響なし ○ : 負圧は生じないが影響あり、または“不明/該当無し” ○ : 負圧が生じる、またはその恐れあり	0点		
	B.3	特別な事項	○ : 良い(ほとんど問題なし) ○ : 普通(問題は少ない、大きな問題なし) ○ : 悪い(問題が多い)	—		
地震	A	地震時の水管橋(または添架管)の耐震性(別表1~4「耐震チェックシート」の診断結果は?)	○ : レベル2の震度階に対して「高い」 ○ : レベル2の震度階に対して「中」 ○ : レベル2の震度階に対して「低い」あるいはレベル1の震度階に対して「高い」 ○ : レベル1の震度階に対して「中」あるいは「低い」	0点	0点	0点
	B.1	埋設管との取り合いの可とう性	○ : 問題なし ○ : 危険性がある、または“不明” ○ : 問題あり	0点		
	B.2	落橋防止対策	○ : 問題なし ○ : 危険性がある、または“不明” ○ : 問題あり	0点		
	B.3	架設場所付近は、切り盛り遺放地や悪露地、山地の道路、及び地表面に現れた活断層横断面など、大きな地震動等・地震震度、堤防の側方流動などによって管が二次被害を受ける危険はないか?	○ : 問題なし ○ : 危険性がある場所に設置されている、または“不明” ○ : 問題あり	0点		
	B.4	特別な事項	○ : 良い(ほとんど問題なし) ○ : 普通(問題は少ない、大きな問題はない) ○ : 悪い(問題が多い)	—		
維持管理	A	通常点検などを行いやすく、また事故時対応も問題がないなど、管理しやすい埋設状況にあるか?(鉄道橋や高遠道路橋などに添架し点検歩廊がない場合など、管理上問題はないか?)	○ : 良好な環境 ○ : 資料はないが、分かっている範囲では問題なし ○ : 軽微な支障あり ○ : 重大な支障あり	0点	0点	0点
	B.1	管情報(管種、口径、埋設位置、塗装、コンクリート劣化)の把握状況	○ : 正確に把握できている(管種、口径、埋設位置) ○ : 一部把握できている(管種と口径、または埋設位置のみ) ○ : 把握できていない	0点		
	B.2	点検歩廊、点検はしご、進入防止柵及び取付器具(固定バンドなど)の維持	○ : 良い(問題なく適切である) ○ : 普通(特に問題がなく支障になることが少ない、または“不明” ○ : 悪い(適切とは言えない)	0点		
	B.3	空気弁等の付属設備の作動性	○ : 良い(支障なし) ○ : 普通(支障になることが少ない、または“不明” ○ : 悪い(支障になることが多い)	0点		
	B.4	特別な事項	○ : 良い(ほとんど問題なし) ○ : 普通(問題は少ない、大きな問題はない) ○ : 悪い(問題が多い)	—		

注) 1) “不明”は、「該当しない場合」を含むものとする。
2) 添架管の場合は、管を添架した鉄道橋や道路橋は評価の対象外とする。

2.2.7 管路評価結果（個別）

管路評価の個別結果はレーダーチャートで表示する。



2.2.8 管路評価結果（一覧）

カルテシート-2 の入力後、管路評価結果シートに評価結果を一覧で表示する。

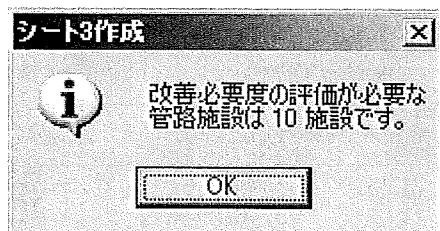
● 管路評価準備シート

カルテシート-3作成

管路No	系統名	管路形態	耐震性 判定点※1	老朽度 判定点※2	漏水	水質	水量・水圧	地震	維持管理	改善必要度
	リストから選択	リストから選択	別表より判断	別表より判断	カルテシート-2結果	カルテシート-2結果	カルテシート-2結果	カルテシート-2結果	カルテシート-2結果	カルテシート-3結果
工区-1	浄水場系統-1	水管橋			25	38	58	33	58	
工区-2	浄水場系統-1	水管橋			30	38	38	58	58	
工区-3	浄水場系統-1	水管橋			50	75	58	75	58	
工区-4	浄水場系統-1	水管橋			58	75	58	75	58	
工区-5	浄水場系統-1	水管橋			75	75	58	67	58	
工区-6	浄水場系統-1	埋設管			75	38	58	67	58	
工区-7	浄水場系統-1	埋設管			75	75	58	67	58	
工区-8	浄水場系統-1	埋設管			25	38	58	33	58	
工区-9	浄水場系統-1	埋設管			50	58	58	67	58	
工区-10	浄水場系統-1	埋設管			38	38	58	67	58	
工区-11	浄水場系統-1	埋設管			58	58	58	33	58	
工区-12	浄水場系統-1	埋設管			67	38	58	50	58	
工区-13	浄水場系統-1	埋設管			67	58	58	33	58	
工区-14	浄水場系統-1	埋設管			58	38	58	50	58	
工区-15	浄水場系統-1	埋設管			75	58	58	33	58	
予備欄										
記入例	浄水場系統-1	埋設管	0	3						

管路No 事前に選択させる工区数分の表示
 系統名 前段の選択内容とリンク
 管路形態 埋設管/水管橋・橋梁添架を選択
 耐震性 3~0を選択
 老朽度 3~0を選択
 路線名 手入力
 管路種別 漏水/送水/配水
 管種 手入力
 継手 手入力
 口径 手入力
 経過年数 手入力

「カルテシート-3」作成をクリックすると、カルテシート-2 の評価結果のうち、漏水、水質、水量・水圧、地震、維持管理の1項目以上で50点未満がある管路に対してカルテシート-3を作成する。



● カルテシート-3 改善必要度評価(埋設管)

入力欄

分類	No	詳細設問	評価区分	判定点	平均点 (/50点)	合計点 (/100点)
改善 必要 度	様式2 より	様式2において重要視している分類	<input type="checkbox"/> : 漏水 <input type="checkbox"/> : 水質 <input type="checkbox"/> : 水量・水圧 <input type="checkbox"/> : 地震	1点 1点 0点 1点	19点	24点
	影響1	影響範囲 (右欄に記載の口径などによる判定方法のほか、需要者数による方法、工場・店舗等の大口需要者がいるときはその需要量の大きさによる方法などがある)	<input type="radio"/> : 極大 (最大口径の4/5以上) <input type="radio"/> : 大 (最大口径の3/5以上) <input type="radio"/> : 中 (最大口径の2/5以上)、または“不明” <input type="radio"/> : 小 (最大口径の1/5以上) <input type="radio"/> : 極小 (最大口径の1/5未満)	0点		
	影響2	年代管種別の経年化レベル	別表4を参照			
	影響3	該当する項目 (「水道施設の耐震計画策定指針」参照)	<input type="checkbox"/> : 代替機能がなく、機能停止した場合、影響が広範囲となる管路である <input type="checkbox"/> : 域防災計画等に位置づけられた病院など、災害時の拠点医療施設への給水ルートである <input type="checkbox"/> : 防災拠点・避難所・応急給水拠点など、発災後活動の拠点施設への給水ルートである <input checked="" type="checkbox"/> : 政治行政機能への給水ルート <input type="checkbox"/> : 経済機能(地域産業、大口需要者等)への給水ルート	1点	5点	
	影響4	この区間において、漏水事故が発生した場合の浸水等による影響 (道路交通、鉄道への影響等)	<input type="radio"/> : 極大 (緊急輸送道路、河川堤防、道路横断や付近に地下施設あり) <input type="radio"/> : 大 (広域的な主要国道・県道に埋設) <input checked="" type="radio"/> : 中 (上記以外の主要道路に埋設)、または“不明” <input type="radio"/> : 小 (一般的な市町村道に埋設) <input type="radio"/> : 極小 (郊外の道路に埋設)	2点		
影響5	特別な事項	<input type="radio"/> : 極大 (改善必要度が極めて高い) <input type="radio"/> : 大 (改善必要度が高い) <input type="radio"/> : 中 (改善必要度が中くらい) <input type="radio"/> : 小 (改善必要度が低い) <input type="radio"/> : 極小 (改善必要度が極めて低い)				

● カルテシート-3 改善必要度評価(水管橋)

入力欄

分類	No	詳細設問	評価区分	判定点	平均点 (/50点)	合計点 (/100点)
改善 必要 度	様式2 より	様式2において重要視している分類	<input type="checkbox"/> : 漏水 <input type="checkbox"/> : 水質 <input type="checkbox"/> : 水量・水圧 <input type="checkbox"/> : 地震	1点 1点 1点 1点	25点	25点
	影響1	影響範囲 (右欄に記載の口径などによる判定方法のほか、需要者数による方法、工場・店舗等の大口需要者がいるときはその需要量の大きさによる方法などがある)	<input type="radio"/> : 極大 (最大口径の4/5以上) <input type="radio"/> : 大 (最大口径の3/5以上) <input type="radio"/> : 中 (最大口径の2/5以上)、または“不明” <input type="radio"/> : 小 (最大口径の1/5以上) <input type="radio"/> : 極小 (最大口径の1/5未満)	0点		
	影響2	年代管種別の経年化レベル	算出方法:別表6を参照			
	影響3	該当する項目 (「水道施設の耐震計画策定指針」参照)	<input type="checkbox"/> : 代替機能がなく、機能停止した場合、影響が広範囲となる管路である <input type="checkbox"/> : 域防災計画等に位置づけられた病院など、災害時の拠点医療施設への給水ルートである <input type="checkbox"/> : 防災拠点・避難所・応急給水拠点など、発災後活動の拠点施設への給水ルートである <input type="checkbox"/> : 政治行政機能・経済機能など、都市機能を支える重要施設への給水ルートである <input type="checkbox"/> : 緊急輸送道路、損傷した場合、他の復旧活動に影響を与えるルートである	0点	0点	
	影響4	この水管橋・添架管において、漏水事故が発生した場合の浸水等による影響 (道路交通、鉄道への影響等)	<input type="radio"/> : 極大 (緊急輸送道路や鉄道の上に架設) <input type="radio"/> : 大 (広域的な主要国道・県道の上に架設) <input type="radio"/> : 中 (上記以外の主要道路の上に架設)、または“不明” <input type="radio"/> : 小 (一般的な市町村道の上に架設) <input type="radio"/> : 極小 (郊外の道路の上に架設)	0点		
影響5	特別な事項	<input type="radio"/> : 極大 (改善必要度が極めて高い) <input type="radio"/> : 大 (改善必要度が高い) <input type="radio"/> : 中 (改善必要度が中くらい) <input type="radio"/> : 小 (改善必要度が低い) <input type="radio"/> : 極小 (改善必要度が極めて低い)				